

平成30年6月26日(火)

平成三十年度第一学年保護者文集「子供たちの進路に寄せて」

巻頭言

お子様たちが、合格発表前の緊張した時間を様々な「思い」を巡らしながら過ごし、合格発表の後、「思い」を爆発させ、無事に合格証書を受け取り、皆様への「思い」を満面の笑みに表現しておりましたのは、ついこの間のことのようにです。

その後、保護者共々のオリエンテーションへの参加や、教科オリエンテーションの後に、晴れの入学式を迎え、様々な行事を様々な「思い」を抱きながら磐城高校生となる日々を重ねてきているところでもあります。

本校では、「総合的な学習の時間」の中で、一学年では、「高校生になる」「進むべき道」をテーマにした指導を行っています。その指導の一環として、生徒自らが自己の適性や今後の進路を考えるために、保護者の皆様に「進むべき道」に関わる執筆を依頼し、保護者の体験を基にした、直截な就業の喜びやご苦労などを子供として知る体験をさせてきました。この経験をすることで、これまで過ごしてきた地域の皆様の「思い」を知り、地域をやがて支えるべく大きな志と、次世代として受け継ぐ共通した「思い」を育てることができればと考えてのことでもあります。

今年も保護者の皆様の貴重な体験を基にした子供たちへの強い愛情に裏打ちされた温かな数々のお言葉をいただくことができました。誠にありがとうございました。

一年生の生徒の皆さん。皆さんは、「高校生である」ことから、「高校生となる」日々を一人一人自分なりに経験していることと思います。その日々は、「思い」のとおりとはいえ、時には懐疑的になったり、反発を覚える瞬間瞬間もあることと思います。

特に、高校に入学したとたん、次なる進路を早期に模索することを強いられていると感じることは、誰もがもうそんな話をするのかと思うことでしょうし、それよりも部活動やほかの興味ある活動に時間を優先したいと感じたことは間違いとはいえません。

しかし、皆さんが手にするこの冊子の中には、保護者の方々が実際に経験しなければならなかった困難や苦勞を乗り越えてきた中での「思い」と、親として直接に言葉にはしなくとも皆さんへの心からの配慮に満ちた「思い」があふれているのです。

一年生の生徒の皆さん。人は、様々な「思い」の基に集い、その「思い」を受け取り、その「思い」に結集して、次の時代を切り拓くものです。「思い」をどのように受け止めるかは、皆さんがすることです。「思い」によって人は変わるものであるのです。「希望とは、自分が変わることだ」と養老孟司が語っております。

保護者の皆様には、本校教育への温かいご理解とご協力に重ねて感謝申し上げます。私たち教職員は、一年生の生徒の皆さんが、保護者の皆様の「思い」を彼ら彼女らなりにきちんと受け取って、磐城高校生となる一歩を進み出すことを信じております。

人の「思い」を受け取ろうとして懸命な子供たちの姿は、様々な学習活動や学校生活の中に見いだすことができっております。今後とも、保護者の皆様と共に生徒の皆さんの成長を見守っていく所存であります。どうぞよろしく願いいたします。